

シャロンの花だより

24期の主題 新しい歌を主に向かって歌おう

～ あふれる愛を となり人へ ～

「行ってあなたも同じようにしなさい」 ルカによる福音書10章37節



巻頭言

「新しい歌を歌おう」—新しい礼拝式文について—

式文委員：中島康文（市川教会牧師）



今年1月、各教会に「式文」が届けられたことと思います。式文本文と礼拝曲のみの「試用版」です。諸式(葬儀・結婚式等)やその日の祈りなどを加えた「式文」は、2026年の完成を目指して、現在も作業を行っています。2006年に作業を開始した当初、2017年(宗教改革500周年)の完成を目指していましたが、その時までには完成したのは「式文本文」のみでした。あれから2年、本文に曲を加えたものが、やっと完成し、今回の出版となった次第です。「遅れてしまい申し訳ありません」という気持ちがある一方、「ここまでやっと辿り着いた」とホッとした気持ちが同様に沸いています。何せ12年余を経過しているのですから。

式文の検討は、ひとえに「宣教のさらなる進展」のために行われました。2006年の取り組み開始から、委員会では「次世代への伝道、礼拝を通して元気になること」等を念頭に置いていました。その上で式文の歴史的経緯、神学的意味等を学ぶと同時に、現行式文の検討を開始しました。新しい言葉に置き換える必要があるもの、大きく修正する必要があるもの、そして全体の構造等について検討を重ね、本文の素案を提案したのが、2012年の総会でした。現行式文が「開会、みことば、奉献、聖餐、派遣」と五つの部に分けられ、各部を「祝福の挨拶」によって繋いでいく形から、「招き→みことば→聖餐→派遣」が流れるように行われ、奉献は献金のみならず自らを捧げるという意味を重視して派遣に加えるという変更を行い提案しました。

曲案に関しては4人(いずれもルーテル教員)に依頼し、おひとりには「現行式文曲からの編曲」とお願いしました。2014年総会前に原案をいただきましたので、一部総会で実演紹介しましたが、出席者は手元に楽譜もなくいきなりの紹介に、恐らく「式文委員会はルーテル教会の礼拝をどうしたいのか」と不安な気持ちを抱かせてしまったことでしょう。それでも徐々に理解を深めていただき、2018年総会において承認され、製本(試用版)作成作業を行い完成しました。

紆余曲折ありましたが、四つのバージョンは式文本文の構成(流れ)を加味しつつ工夫されたものです。教会で用いていただければ幸いです。各教会の「宣教の進展」を願いつつ。

社会への一歩

東教区女性会会長 市川直美



約一年間、主のお守りのうち、たくさんのご協力のもと女性会の歩みを進めてこられたことを感謝いたします。

ある日、女性会の会員のお宅を伺う時がありました。母教会からほど近く、門から日本風のお庭で玄関まで数種の植木があり、踏み石の間がつまずかないように板が敷かれていました。玄関横の和室は二部屋を開放し広い空間になり、ゆっくりお話ができます。この場で教会の聖書研究会が定期的に行われているとのことでした。呼鈴が鳴ると、ご近所のご高齢の方の元気なお声。他にも毎日顔を見せる方がおられるとのこと。また、楽器のお稽古に若い方も通われていると聞きました。ご自分からはあえてお話しされたことがなかったのですが偶然知りました。思わず私は「素敵なお家ですね」と申しました。地域の中に生き、交わり、聖書の学びの場を提供する。女性会の新しい交わりの中にこのような出会いを頂きました。連盟の今期の目標に「もっと社会に目を向けよう」とあります。社会は姉妹の生活の中に根付いていました。私たちも自分の家庭を基に社会との繋がりを持ち、それぞれの一歩を踏み出したいものです。

一月の役員会で今年度の活動計画を話し合いました。三月のコーヒーショップや九月のミニショップは、是非開催したい活動です。前年度は、各教会からの心尽くしの献品が参加者に喜ばれ、女性会のブースを楽しみにする方がいました。今年度も年間予定に組み込み、ご協力をお願いいたします。会員の協力が、神学校や被災地支援への献金となります。祈りと共にお届けいたしましょう。

また、休会の女性会へ私たちは何ができるか考え行動をしていきたいと思っています。心に寄り添いつつ、隣りや同じ地区等の教会の協力をいただきながら行っていきたいと思っています。

女性会の会員の方々は色々なところで活動をされています。会長会や女性会で活動の報告を聞く機会があります。日々の生活を通して社会と繋がるように、神様は各々に良いものを備えてくださいます。私もあと二年、暖かい四人の役員メンバー始め会員の皆様と出会えたことに感謝し、共に歩みを進めていきたいと思っています。



第24期のシンボルカット

第24期東教区女性会・第2回会長会&女性の集い

酒井 瞳 (むさしの教会)

2018年10月13日に、ルーテル市川教会にて、第24期東教区女性会・第2回会長会&女性の集いが行われました。テーマは「新しい歌を主に向かって歌おう——あふれる愛をとなり人へ——」という題で、小勝奈保子牧師の礼拝や、新式文のピアノ伴奏付きの楽譜案と新式文委員会の活動を中島康文牧師から、講義として聞きました。

その後、3つのグループに分けて、グループディスカッションを行いました。その中で「なぜ女性会を持つのか」や「なぜ持ちたいのか」というテーマで話し合いました。特に、今の時代に多く叫ばれているLGBTなど、多様性と権利の社会において、「女性会」という名称そのものへの疑問も挙がりました。教会の中だけではなく、教会は社会にも繋がる存在として、このような社会の流れを、受け入れる柔軟な姿勢の必要性も感じられました。

そして、女性会の連盟や教区への加入休止が増えつつある現状を踏まえ、「高齢化が進む中、今のままで良いのか」「女性会の組織を見直す必要はないか(役員・会費・組織・他)」「女性会が何故、今必要なのか、又不要とするのか」「女性会で直面している問題はありますか」等のテーマで議論しました。

私のグループの中では、高齢化に対しては「どうすれば青年たちが女性会に来るようになるのか」という問いが出ました。しかし、青年が女性会に来るのは稀なようで、また参加者の殆どは、自身が若い頃は女性会には参加していなかったとの発言もありました。その上、東教区では、青年の特定の教会への一極集中も多いと感じました。また、女性会の高齢化の中で、若者とどうコミュニケーションを取ればいいのか分からないという意見も多いものでした。



女性会の組織の見直しについては、当番制と総会に対して、この高齢化と若手の減少の中で、役員を出し、そして会費を払う事に対して、どの教会も負担が大きくなっていると聞きました。また、歴代の活動や、任期や役目、慣れてきたものをどれだけ次の代の女性会の役員に伝えるのかという悩みも出ました。その際に、伴走期間の必要性と同時に、前期の役員が次の期の人々に口出しをしすぎてはいけないなど、役員であるからこそその配慮の声もあがりました。

また、女性会が何故今必要なのかという事については、女性の役割の新たな見直しも検討されました。その中でも「手仕事」と「礼拝後の食事当番」という2本が、どの教会でも主要なものでした。最近では、地域との連帯感や共感性を高めるために、地域の住民との茶話会を開いている場所も多いようでした。茶話会の中では、聖書や賛美歌を用いたりする所もあれば、あえて平日に聖書や賛美歌を使わずに、地域に開かれたコミュニケーションスペースとしての役割を担う集会もありました。

そのような中で、改めて「女性会で何をしてほしいのか」という、教会全体に対する、新たな問も生まれました。これから、更に多様化し、様々な技術も日々増えていく社会と共に生きる教会として、女性会の新しい可能性や役割への探求も深められた会合でした。



ブラジル伝道の足跡を訪ねて 土井菜穂子

1975年～1984年までブラジル教会牧師の故・土井洋夫人

1965年の宗教改革主日礼拝が、故・藤井浩先生、礼子夫人と数人の方によってサンパウロで行われ、ブラジル伝道は始まりました。2019年3月をもって日本のルーテル教会からブラジルのルーテル教会へと移行し、広いブラジルでの伝道が続けていくことになります。この54年間、日本のルーテル教会は、7人の宣教師とその家族を派遣してきました。私たちの教会は大きい伝道母体とは言えませんが、多額の費用を伴う支援でした。

この度、私は2018年10月に竹田牧師と数人で、サンパウロ教会を40数年ぶりに訪ねました。そこで当時のメンバーとルーツを持つご家族と、その輪が幾重にも広がっていく様に出会いました。サンパウロだけでなく、バスで一昼夜余りの遠い所まで、徳弘牧師、由美子夫人、メロウ牧師を中心に、活発な宣教活動が行われていました。旧約の民が、生まれた土地から導かれるままに移り住んでいったように、日本から遠いサンパウロへ、広い南米の各地へと、神様に導かれていく不思議を思いました。これからも祈りと支援を続けていきたいと思えます。



聖カテリーナの銅像と一緒に・・・

- 左から、
 竹田絵美さん（下関教会竹田大地牧師夫人）
 竹田久美子さん（大森教会竹田孝一牧師夫人）
 土井菜穂子（筆者）
 徳弘由美子さん
 （サンパウロ教会徳弘浩隆牧師夫人）

活動報告

この一年を振り返って… 坪本告子^{のりこ}(連盟・日吉教会)

連盟役員、連盟事務局員の方々に支えられ、一年間続けられました事に感謝します。また、教会の奉仕活動が生活の土台となり、その経験を活かして社会に貢献出来る事を嬉しく思います。景気上昇し、発展していく中でも感謝し、本物を見失わない心を忘れないで大切にしていきたいです。

研修会で活動方針の「もっと社会に目を向けよう」発展途上国のバングラデッシュでの貧困の一因として、事業女性の自立と貧困の改善に大きな貢献をしたとして国際的に注目を集めています。女性の活動を深く考えました。

マザーテレサ「平和も戦争も家庭から始まります。もし本当に世界平和を願っているなら、まず自分の家族が相互に愛し合うことから初めてゆきましょう。もし、喜びを広げてゆきたいなら、まず、一つひとつの家族が喜びをもって生活することが必要なのです。」主の恵み祝福が豊かに有ります様にお祈りいたします。



東京老人ホーム訪問 天木鈴子(書記・大岡山教会)



12月4日(土)に、役員中市川、成田、天木の3人で、東京老人ホームを訪問しました。ホーム・ボランティア活動の責任者・大森はつ子さんにも来ていただきました。私たちは担当の方の案内で、ホームの中を見学し、入所者の7名の方に集まっていただきました。はじめに持参したプレゼントをひとりひとりに手渡して、お話しをしました。

その後、ホームで使われている歌集を用いて、懐かしい歌や讃美歌を歌いました。最後に歌った讃美歌の歌声が一段と大きくなって、私たちの方が励まされました。その後、入所者の方の車椅子を押して食堂に移り、集まっている方たちも交えてお話が弾みました。食事が始まるので皆さんとお別れし、大森さんからボランティア活動の報告を受けました。ホームでは、定期的に入所者のお世話をするボランティア活動が求められているということです。

現在のところ東教区女性会では、保谷(8名)、武蔵野(5名)、三鷹(4名)、大森、池袋、市ヶ谷(各1名)のそれぞれの教会の方々が登録して、活動に参加しています。私たちもその仕事の内容の説明を受け、洗濯物をたたむなどの体験をしました。いろいろな仕事があります。

ボランティア活動をしている方々の働きに感謝して、その仕事の内容や様子を、女性会の皆さんにぜひ知っていただこうと思いました。今後の女性会の社会参加の一つとして、皆さんに呼びかけたいと思います。

監査報告【24期東教区女性会会計 2018年度決算・2019年度予算案】

東教区女性会(24期)					単位：円
費目	2018年度		2019年度		
	予算	決算	予算(案)		
東教区会費	588,000	487,200	500,000	1200×406	
教区便り購読費	20,000	19,600	20,000	100×196	
取 教区活動支援献金	250,000	171,031	200,000	席上100,531 14教会 70,500	
感謝献金	50,000	84,100	50,000	15教会	
コーヒーショップ	60,000	173,886	60,000	コーヒーショップ ミニショップ	
入 雑収入	1,000	9	1,000	普通預金利子	
仮受金					
小計	969,000	935,826	831,000		
前年度繰越金	1,335,088	1,335,088	1,377,158		
収入合計	2,304,088	2,270,914	2,208,158		
支 教区便り	90,000	36,490	90,000	印刷 発送等	
会議費	110,000	28,640	100,000	説教・オルガニスト・講師等	
交通費	200,000	238,228	200,000	役員会・会長会	
教区交流費	150,000	38,540	100,000	遠距離教会交通費	
支 地区活動費	120,000	8,000	120,000	城南神奈川地区	
次世代育成支援金	80,000	4,107	80,000	TNG活動支援・神学生へ手帳	
通信事務費	20,000	14,635	20,000	事務用品 郵便・通信	
出 慶弔費	10,000	0	10,000		
備品費・予備費	10,000	0	10,000	東北・熊本・北海道・ベタニヤ 千葉ベタニヤ・ほしくずの会 東京老人ホーム・ブラジル・神学校	
支援献金	200,000	342,836	200,000		
連盟総大会積立金	100,000	100,000	100,000		
東教区総会積立金	50,000	50,000	50,000		
コーヒーショップ	10,000	30,800	10,000	材料費 包装費	
雑費	5,000	1,480	5,000	振込み手数料等	
仮受金	0	0	0		
小計	1,155,000	893,756	1,095,000		
次年度繰越金	1,149,088	1,377,158	1,113,158		
支出合計	2,304,088	2,270,914	2,208,158		



第24期東教区女性会役員

左から

- 坪本 告子 (連盟)
- 成田 節子 (会計)
- 市川 直美 (会長・筆者)
- 天木 鈴子 (書記)
- 垣内 恵子 (副会長・文書)

連盟会費	1,055,600
会報購読	107,500
連盟支援	85,000
感謝献金	89,300
サバ支援	183,510
リーストコイン	46,068
TNG	54,000
ACWC	1,300
合計	1,622,278

支援先	金額
ほしくずの会	30,000
東京老人ホーム	20,000
ブラジル伝道	20,000
ベタニヤ	20,000
千葉ベタニヤ	20,000
北海道	30,000
熊本	30,000
東日本大震災	20,000
神学校	152,836
合計	342,836

菱田 典子(第

4. 立会人:市川 直美(教

現金	18,069	次年度繰越金	1,377,158
通常郵便貯金	1,387,989	積立金残高	628,900
定期・定額	500,000		
合計	2,006,058		2,006,058

積立金会計	収入	支出	残高
連盟大会積立金	300,000		300,000
交通費		59,020	240,980
18年度積立	100,000		340,980
教区総会積立金	350,000		350,000
総会費		112,080	237,920
18年度積立	50,000		287,920
合計			628,900

2018年度(2018年1月1日～12月31日)東教区女性会決算、2019年度予算について監査結果を報告いたします。皆様のお祈りとお支えのうちに、2018年度の教区女性会会計が守られましたことを深く感謝申し上げます。

1. 監査日時:2019年2月6日(水)13時～15時半
2. 会 場:大岡山教会小会議室
3. 監 査 人:岸田多希子(第24回教区女性会総会選出)

コーヒーショップ	134,886
ミニショップ	39,000

24回教区女性会総会選出)
区女性会会長)

「いっくしみ」のお誘い

「いっくしみ」の関東委員会では、約25年間にわたり学びと交流を続けてまいりました。マレーシアのサバ神学院からパン・ケンピン名誉教授をお迎えし、感謝会を開催することとなりました。

私たちが日本の中に固執せず、隣人に目を向けるきっかけをいただいたのが、サバ神学院への献金であり、お互いに訪問しあう中で育まれた固い絆や交流の歴史が現在も引き継がれているのです。私たちが先達の勇気ある行動を学び、25年間の宝物を分かち合う機会に共に預かりたいと思います。平日ではありますが、昼食をいただきながら和やかに集みましょう。

日 時: 4月11日(木) 11:00～15:30

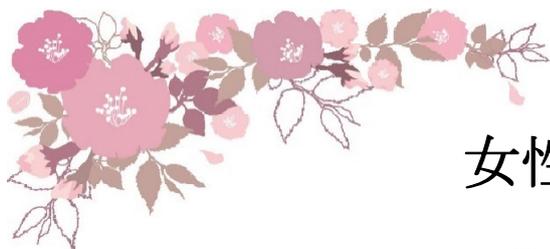
会 場: JELA (日本福音ルーテル社団) 渋谷区恵比寿1-20-26

お 話: パン・ケンピン 名誉教授 (サバ神学院)

説 教: 清重 尚弘 先生

会 費: 2,000円(昼食込み)





春の女性会 女性の集いのお知らせ

日時 2019年4月27日(土) 受付 午前10時より 午後3時
会場 日本福音ルーテル日吉教会 (横浜市港北区下田町1-21-10)

***** プログラム *****

開会礼拝 奨励 多田 哲牧師

活動報告

昼 食

講演 松岡俊一郎牧師 「何か出来るはず」
質疑応答、意見や情報交換

閉会の讃美と祈り 松岡俊一郎牧師



今後の予定・ご案内

- 4月11日(木) 「いつくしみ」 感謝会
パン・ケンピン名誉教授(サバ神学院)
- 4月27日(土) 24期第3回女性の集い 於:日吉教会
- 6月3日(月)~4日(火) 女性会連盟合同役員会
- 6月15日(土) 甲信地区女性会への役員訪問

編・集・後・記

会報も2号目となり、要領が解ってきてすこし楽になりました。文書はわたしが担当としていますが、実際は諏訪教会の仲間みなに編集の協力をしていただいています。「東京の会合には参加できないが、諏訪に居てできる仕事は助け合ってやろう」と、諏訪教会から役員に押し出されたのです。これから新しく役員を出す教会の人たちも、皆で協力してやればできますよ。どんな役が来ても恐れず、引き受けていただきたいと思います。私たちは教会に集う仲間ですもの。それも原稿が集まったからこそ。原稿お書きくださった方々ありがとうございました。今回はバラエティに富んだ会報となりました。感謝。(文書・垣内)

【シャロンの花だより】

- 東教区女性会会報 第94号 (24期 第2号)
- 発行日 2019年4月10日
- 発行人 日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会
- 発行者 市川直美 ■編集 垣内恵子